

230 人が市内の山野などを駆ける耐久レース TAMBA100 アドベンチャートレイル



笑顔で丹波の森公苑をスタートする 100 マイル部門の選手

「TAMBA100 アドベンチャートレイル」が、6月7日から3日間、丹波の森公苑を発着点とし、丹波市内の山野や公道の特別コースで行われました。大会は全長 100 マイル（約 160 キロ）、100 キロ、20 キロ、ノーマル（4.5 キロ）、キッズ、ファミリーの 6 部からなる耐久レース。計 230 人がエントリーした今大会には、ニュージーランド、インド、アメリカなど海外勢も出場し、選手たちは極限に挑みながら、全力でレースを楽しんでいました。

氷上高校女子バレーボール部！今年も県代表に 全員バレーで8年連続インターハイへ



健闘を誓った溝上愛那さん、井上楓恋さん、西村心花さん、前田あすかさん、藤原彩葉さん（写真左から）

氷上高校女子バレーボール部が、7月25日から大分県で開催される全国高等学校総合体育大会（インターハイ）への出場を報告するため、林市長を訪問しました。主将の西村心花さんは、「このチームの強みはメリハリと一体感。1つでも多く勝利して、日本一をめざしたい」と健闘を誓い、U18 日本代表としてアジア選手権大会に出場した溝上愛那さんも、「チームの雰囲気を作っていきたい」と意気込みを語りました。

令和を代表するものまねアーティスト ジョイントライブで観客を魅了

6月23日、ライブピアいちじま大ホールで、「松浦航大×よよよちゃん 歌まねジョイントライブ in たんば」が開催されました。

ものまね王者として活躍中の松浦さんと「令和の歌まねヒロイン」の異名をもつよよよちゃんさんのスペシャルコラボもあり、令和を代表するものまねアーティストふたりの卓越した歌唱力で観客を魅了しました。



スペシャルコラボレーションでものまねメドレーを披露するよよよちゃんさん（写真左）と松浦航大さん

本を通して駅の待合室が交流の場に JR 谷川駅に「ちーたん文庫」

7月8日、JR 谷川駅の待合室に、本の貸出コーナー「ちーたん文庫」が設置されました。図書は有志からの提供により集められ、絵本や漫画、小説など、子どもから大人まで楽しむことのできる約 300 冊が配架されています。貸出期限はなく、駅の利用者以外も無料で利用することができます。

図書の管理人でちーたん文庫 FRIENDS 代表の大原隆子さんは、「駅の利用にかかわらず立ち寄ってもらい、本を通じた交流の場になって欲しい」と話しました。



ちーたんと一緒にちーたん文庫を宣伝するちーたん文庫 FRIENDS の皆さん

まちかと とぴくす

「DEEP JAPAN ULTRA 100」男子 160 km 中谷さんが念願の初優勝



表彰盾を手にする中谷亮太さん（写真右）と林市長

6月21日から23日にかけて、新潟県で開催されたトレイルランニングの大会「DEEP JAPAN ULTRA 100」男子 160 km部門で氷上地域在住の中谷亮太さんが優勝しました。

中谷さんは、「過去2回出場し、いずれも負傷で途中棄権して悔しい思いをしてきた。途中からトップを走り続けていたが、後続に追い上げられ苦しい展開もありながら粘り強く走り続けた結果優勝できてうれしい」と話しました。

丹波市の未来について一緒に考える 丹波市みらいミーティング



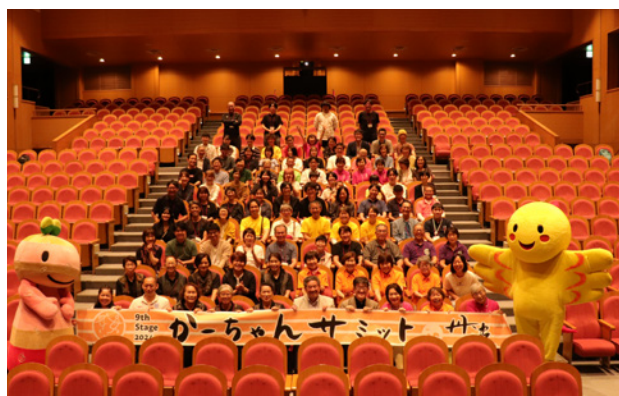
丹波市の未来への思いを色紙につづった参加者

7月7日、ゆめタウンポップアップホールで丹波市みらいミーティングが開催されました。令和7年度から令和16年度までの10年間の市のまちづくりの指針となる「第3次丹波市総合計画」の説明会で、参加者らは配布された色紙に未来への思いをつづりました。

色紙と笑顔の写真は、計画書に掲載され、パブリックコメントなどを経て、今年度中の策定に向けて取組が進められています。

西日本の元気な女性が丹波市に大集合 かーちゃんサミット

6月15日、ライフピアいちじまでかーちゃんサミットが開催されました。女性中心の活動団体の交流会として、九州で始まったサミットで、熊本、鹿児島、福岡、広島、大阪、滋賀など西日本を中心に、約70人が丹波市に集まりました。同サミットでは、防災や農業、地域活性化などの分野で活躍する人材を招いた講演会や、地元女子野球チーム「丹波ベリーエース」との記念試合「現役かーちゃんと未来のかーちゃん」も行われ、サミットを盛り上げました。



全国から集まったかーちゃんサミット参加者

全国大会出場を前に市長を表敬訪問 自己最高の成績を残したい

8月に静岡県で開催される全国空手道選手権大会に出場する前田麗さん、前田禅くん、荒井勇大くんが市長を表敬訪問しました。3人は4月の県大会で好成績を納め、選考会を経て、全国大会出場が決定しました。3人は昨年に続く出場で、その時の訪問よりもキレを増した突きや蹴りを披露し、「自己最高の成績を残したい」と意気込みを語りました。



林市長といっしょに組手のポーズをとる荒井勇大くん、前田麗さん、前田禅くん（写真左から）